

乳がん 高度検診・治療センター NEW ーす NO.34

2017.3

乳がんの画像診断について

乳がんセンターを受診するとまず症状の問診や乳房の触診を行いますが、次に行うのがマンモグラフィや超音波（エコー）検査といった画像の検査です。またもし乳がんがあった場合、手術や化学療法などの治療を始める前には必ずCT（コンピュータ断層検査）やMRI（磁気共鳴画像検査）といった検査を行います。こうした画像診断は乳がん診療の大きな柱となっています。

マンモグラフィ

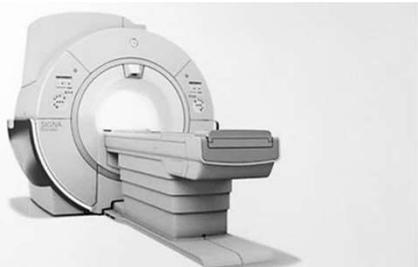
マンモグラフィは乳房専用のエックス線撮影です。乳がん検診にも用いられ、また外来を受診された場合ほぼ必ず行うファーストチョイスの検査です。当センターではマンモグラフィ撮影資格を認定された放射線技師が撮影し、同じく資格認定を受けた専門医によって診断を行っています。また他の病院にはない特長として、当センターでは必要に応じてすぐ拡大撮影や最新機器の**トモシンセシス（3Dマンモグラフィ）**を追加して行うので、より詳しい診断が可能です。

超音波 （エコー検査）

マンモグラフィと並んでファーストチョイスの検査です。マンモグラフィでは不得意な高濃度乳房（脂肪組織が少なく乳腺組織が密につまった乳房）や、小さな腫瘍の診断に威力を発揮します。またマンモグラフィと違いエックス線を使わないので、若い方や妊娠している方も安心して受けていただけます。超音波検査も資格認定された検査技師が行います。また各診察室のベッドサイドにも設置されているので、乳腺外科医が診察と同時に検査したり、その場で超音波画像を見ながら穿刺針で細胞を採取して調べたりすることができます。

MRI （磁気共鳴画像検査）

治療を始める前に乳がんの大きさや乳房内での拡がりをチェックするために行います。乳房の検査では必ず造影剤と呼ばれる検査薬を血管から投与します。それによって乳がんと正常な乳腺がはっきり区別され、がんの大きさや拡がりわかります。当院では今月から新しく**3 Tesla MRI**という装置が入りました。これまでの1.5Tesla MRIと比べて高精度、高画質の撮影ができ、乳がんの画像も向上が期待できます。



超伝導磁石式全身用MR装置（GE社製 SIGNA Pioneer 3.0T）

CT （X光1-断面検査）

MRIと同じく乳がんの治療前に造影剤を用いて行います。乳がんの位置、大きさがわかる他、CTの特徴としてリンパ節、肺、腹部なども同時に撮影できるのでため転移の有無や乳がん以外の病気の有無もチェックできます。また乳がんの治療後に、転移などないか定期的にチェックするためにも用いられます。

さらに詳しいことをお知りになりたいことがありましたら、放射線科または乳がん高度検診・治療センターにお問い合わせください。

放射線科 沢井 コカ